



関根康雄講師

## 関根 康雄 講師

※2008年4月1日に東京女子医大八千代医療センター呼吸器外科准教授に異動予定

千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1

TEL: 043-222-7171

最寄りの駅/JR総武線千葉駅、大学病院ま

または南矢作行きバス大学病院下車、すぐ

<http://www.ho.chiba-u.ac.jp/18/>

<スタッフ>吉野一郎教授・渋谷潔講師・鈴木実助

教・伊豫田明助教・安福和弘助教・吉田成利助教

### Profile

せきね・やすお。1961年東京都生まれ、千葉大学医学部卒。国立佐倉病院などで勤務、米インディアナ大学に留学。また加トロント大学胸部外科で臨床研修を行い、33例計65の肺移植手術に参加し、術者としてドナー肺摘出20例、肺移植術17例の経験を積む。

### 実績・成績

肺がん108例、転移性肺腫瘍27例、縦隔腫瘍25例、重症筋無力症25例(うち胸腺腫合併6例)、気胸21例、そのほか34例の計240例(2006年・科)。5年生存率ステージIa83.8%、Ib 60.5%、IIa 60.2%、IIb 38.7%、IIIa 28.0%、IIIb 31.2%、IV 21.2%。I期症例の中でも径2cm以下は87.4%。患者数は新患574人、入院485人(05年・科)。年間約300人(関根講師)。

### 特色

### 高い技術で高難易度の手術を施行

対象疾患は肺がん、気胸など嚢胞性肺疾患、縦隔腫瘍や重症筋無力症、胸膜および胸壁腫瘍、腫胸などで手術症例は年約250例。気道再建を含めた機能温存手術、血管再建を含めた拡大手術も積極的に施行、術前術後に放射線療法、化学療法を併用した手術療法も行う。同科は重症呼吸器疾患に対する肺移植の認定施設。

### 治療

### 慢性呼吸器疾患を合併した肺がん、肺移植、重症筋無力症の手術に定評

胸腔鏡下手術が主流。傷が小さく早期回復が図れ、特に気胸・良性腫瘍・肺末梢の転移性腫瘍での効果は大きい。肺がんではリンパ節転移のないIa期に用い、重症筋無力症に対する拡大胸腺摘除術やI期胸腺腫にも適応を広げる。術後7~10日で退院できる。

「抗がん剤、放射線と比べれば、実は手術が最も治療期間の短い治療法」(関根講師)だが、しかしその成功率は医師の技量に大きく左右される。肺がんの手術は基本的に「取るだけ」であり、初期の肺がん手術を100例こなしても再建の手術(つなぎ直す)では素人。「つなぎのがうまいのは移植手術や、腫瘍を取った後に血管や気管支をつなぎ直す手術をこなしている人。簡単な手術を1000例やっている人より、進行した肺がんの難しい手術を50例やっている人の方が、本当の意味で実力がある」(同講師)。

胸腔鏡下手術は低侵襲だが長期的には傷の大

きさは肺機能に関係ない。術後の肺機能は残った肺の大きさによって決まるため「いかに小さく切除し、かつ根治性を保つかが課題」となる。

心臓血管外科などとの連携も欠かせない。重症筋無力症では神経内科と協力、免疫抑制剤と手術を組み合わせた治療を行い、約9割が治療もしくは症状が軽減。呼吸器内科とも連携して術後補助療法を含めて施行している。

企業と共同して新技術の開発にも携わる。2007年には超音波気管支内視鏡を開発、全身麻酔をせずにリンパ節の状態を確認することが可能になり、手術時機を逃すこともなくなった。

同講師の研究テーマは肺移植のほか、肺気腫や慢性呼吸器疾患を患う人の肺がん治療。術後のQOLを維持するリハビリ法や、気管支拡張剤など薬のサポートを研究して積極的に臨床に取り入れている。手術の待ち日数は1~1か月半となっている。

### 関根講師からのアドバイス

信頼できるかかりつけ医を持ってほしい。がん難民といわれる人たちは熱心な勉強家が多いが、勉強熱心がゆえに真実を見誤っているところがある。情報に踊らされず、1人の医師と何でも言い合える信頼関係を築き、その医師から各専門分野につなげてもらうようにすればいい。熱意を持って信頼すれば、熱意を持った治療がきくと受けられる。信頼できる医師を見つけるには、友人など信頼できる人を通して紹介してもらうのもいいと思う。